

脂鰭切除した標識アユを探しています

アユは美味しい魚で、内水面漁業のみならず、中山間地域にとっても重要な魚種です。種苗生産技術が開発され、放流量が増加するにつれ漁獲量も増加しましたが、近年では冷水病のまん延、カワウやブラックバスの食害、河川環境の変化等により漁獲量は大きく減少しています。

アユの冷水病は、大雨が降った後、水温 16～20℃で発生しやすい細菌性の疾病です。下顎の傷や体表の潰瘍による穴あき症状が特徴で、貧血となり死亡します。高い効果が期待できるワクチンは、未だ開発されていません。そのため、冷水病耐性をもつ海産交配系種苗や海産系種苗（図 1）の生産が求められています。

本県では、種苗生産を開始する 9 月下旬から 10 月上旬に採卵可能な海産系の親アユを必要量確保することができないため、春に天然遡上魚を採捕し、親魚に養成する技術が求められています。なお、本研究所では飼育に必要な河川水や井戸水などの淡水が十分得られず、通常の「掛け流し方式」での飼育が困難なため、軽石などで有害なアンモニア等を除去する「閉鎖循環方式」で飼育します。

実際に、平成 29 年 4 月に採捕された吉井川を遡上する稚アユを 10 月 5 日まで飼育したところ、雄では十分な成熟が認められたため、この養成雄を用いて海産交配系種苗を生産しました。そして、放流効果を確かめるため、平成 30 年 5 月 21 日、脂鰭の切除により標識した体重約 9g の稚アユ 5,500 尾を真庭市勝山の旭川に放流しました（図 2）。

放流場所周辺は友釣り適地が多く、また、友釣りをする人も多く見られます。釣れたアユの中に脂鰭がないもの（図 3）がいれば、内水面研究室までご連絡願います。

内水面研究室

電話：0868（28）4558

最後に、遡上魚の採捕にご協力いただいた吉井川南部漁業協同組合員の皆様、また、脂鰭切除を始めとする放流調査にご協力いただいた旭川中央漁業協同組合員の皆様に改めてお礼を申し上げます。

（資源増殖室：近藤）

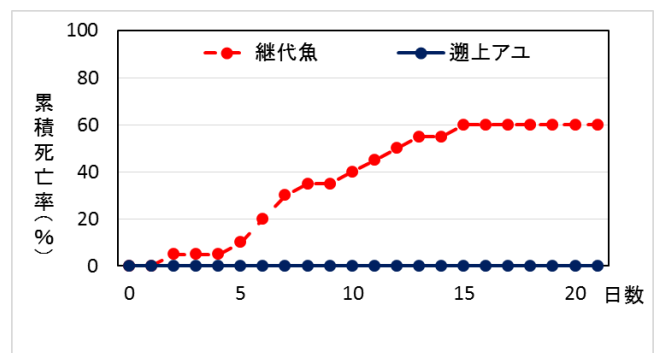


図 1 異なる種苗の冷水病耐性
（岡山県水産試験場報告第 24 号一部改変）



図 2 放流状況



図 3 標識した海産系交配アユ